

令和3年度第2回 長洲町立中学校規模適正化調査委員会 会議録

日 時：令和3年11月29日（月） 午後7時

場 所：長洲町中央公民館 研修室

出席委員：出席13人：

委員 長 太田 恭司（熊本大学大学院教育学研究科シニア教授）
副委員 長 猪本 一男（長洲町駐在員会会長）
委 員 稲田 尚誠（長洲町校長会会長、腹赤小学校校長）
牧山 純一（腹栄中学校校長）
富田 孝司（長洲中学校校長）
岩切久美子（長洲町PTA連合会会長）
村島 佳行（腹栄中学校PTA会長）
田中 伏美（長洲中学校PTA会長）
松岡 友美（NPO法人スローすてっぷ代表）
菅原 雅子（長洲ひまわり幼稚園園長）
中尾 政光（腹栄中学校学校運営協議会会長）
福田 了哉（青少年育成町民会議代表、長洲中学校学校運営協
議会会長）
上野 準一（駐在員会副会長）

：欠席0人

事務局：教育長 戸越 政幸 学校教育課長 松林 智之
学校教育課指導主事 松井 明 生涯学習審議員 松永 光親
学校教育課課長補佐 金森 秀益 生涯学習課参事 山隈 司

議 題：1. 前回の調査委員会後の各委員のご意見について
2. 前回の意見に対する回答について
3. 調査委員会の結論について
4. 今後のスケジュールについて

開会（午後7時00分）

○事務局

皆さま、こんばんは。定刻となりましたので会議の方を始めさせていただきたいと

思います。はじめに配布資料の確認をさせてください。お手元に会次第と前回、委員の皆さまに出していただきましたご意見の一覧をお配りさせていただいております。お手元に資料等ございますでしょうか。

(「はい。」と呼ぶ声あり)

ありがとうございます。

それでは、太田委員長にご挨拶をいただきまして会議の進行をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○委員長

皆さん、こんばんは。ニュースによると一番の冷え込みというふうに伝えておりましたですね。それぞれ、お身体は大丈夫でしょうか。

私は今、熊本市内に住んでおりますけども、長洲町の小中学校の活躍ぶりが届いてきます。それぐらい町として効果的な活動が展開されているなということは、伝わっているところです。

本会につきましては、そこに甘んじるのではなくて20年後、30年後の長洲町の未来に向けてこのメンバーで発展的に教育活動を進めていくかという重要な案件を抱えているのではないかと思いますので、ぜひ未来志向ですね、本会の協議を進めていただければと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

(「お願いします。」と呼ぶ声あり)

この後は座って、会を進めさせていただきます。

前回の会から約1か月が経っております。前回のときもあったかと思うんですけど、前回話し合われたことをそれぞれの団体に持ち帰っていただいて情報収集をお願いしたいところで連絡があったかと思しますので、まず、どういった情報をお持ちなのかも含めて、それぞれの委員さんに情報提供をお願いできたらと思いますけどよろしいでしょうか。校長先生方は除いて、校長先生以外の委員さんからお願いできたらと思いますけど、順番によろしいでしょうか。

○委員A

こんばんは。特別ですね、会議の方を学校でしていなかったのが全体にお話しする機会はなかったんですよ。なので、個人個人でしかこういった内容のことはお話しできなかったもので、いい参考のお話はできませんが、ただ、同じような考えですね、前回の会議に取り上げた、皆さんがおっしゃったようなことを個人的に話して、同じようなことを言われてました、保護者の方はですね。以上です。

○委員長

同じようなことというのを具体的に。

○委員A

そうですね。私達は長洲小学校区ですので、やはり遠くなるということに不安じゃないですけど…。統合するよと話した時に、場所的には長洲に来るわけがない。なんとなく保護者もわかっている。なんとなくの話で、長洲にはこないでしょ、端っこだけんという話じゃないですか。なので、どこかわかんけど、長洲中じゃないという話ですから、遠いという印象、まず第一に。そのために、長洲に住んできたのにとか、長洲校区に住んだのにとか、家を建てたのにとか、そういうご意見、切実なところですね。前回、菅原さんがおっしゃったように、実際、本当に統合になったらそのとおりになっていく、順応していくとは思うんですという話はもちろんそこではしたんですけど、ただ意見として色々聞かせてくださいという話をしたら、遠いということが一番多かったです。長洲校区がいいという声が多かったです。以上になります。

○委員長

通学距離の問題が一番話題としてはあがったということですね。ありがとうございました。

○委員B

こんばんは。私自身も周りに、公にというか自分の学校の方々には話をしていません。前回もこの会で言ったかな、町全体の PTA 聯合会の役員さん達がみんなここで集まって研修会をしたときには、こういう動きが町の方であっていますという説明だけして、それ以上のことには触れていません。やはり問題点というものはっきりこうなりますとなったなかで、それに対する問題点を色々出して潰していった方がいいと思うので、今は難しい。はっきりと今後進んでいくなかで内容について保護者の方々にどんどん意見を聞いていって、また次の会で保護者としての意見を出していこうと思います。今、現在ではそこまで大した意見はありません。

○委員長

決まった方向で、そのときに起こってくる問題について、対応していけたらということですね。ありがとうございます。

○委員C

私も役員会はあったので、統合という話があるよという程度で、詳しく知りたい方は個人的に聞きに来てくださいという問いかけをしたら、あまり聞きに来る方はいら

っしやらない感じなんです、ただ何人かの保護者の方にお話を聞いてみると、学力だけで言えば少人数の方が上がるのではないかと、小学校なんかの例をみると、ということでは統合の必要がその点であるのだろうかという方もいれば、新しい学校を建てて新しい教育方針、先進的な教育方針も持ったうえで統合した方がいいのではないかと、急ぐ必要があるのかという部分とオランダの方の教育の凄いのがあるじゃないですか…。

（「イエナプランですか。」と呼ぶ声あり）

ああイエナプランとかですね、自分が好きなような課題を見つけてきて学年差関係なく学問を自ら学ぶような教育があるんですね、そういったものを掲げるとか。校則や制服を一切なくして主体的な中学生生活を、自分たちで中学生らしさを考えるような学校にするとか、新しいというか、今後の教育をもっと考えてほしいな、このまま問題があるからとりあえず統合しましたじゃどうかなというご意見は何個か聞きました。

後ですね、先生からお話を聞くことがありまして、小中一貫校とかも検討したうえでの統合なのかという部分と、今日、たまたま大学の先生にお会いしたときに中高一貫を考えて、長洲に凄い高校をとかですね。今、その辺の学校は定員割れじゃないですか、どこもかしこも。逆に文徳とか人気があつてすごく多くなっているの、例えば駅近くに文徳のサテライトというか、分校みたいな形で芸術に特化したとか、そういうのを、長洲に他所からいっぱい集まってくるような学校にしてはどうかとか。そういったご意見は色々聞くことが出来ました。私の意見がだいぶ入っています、今のは。

○委員長

ありがとうございます。相当、未来を見据えたご意見をお持ちの方がいらっしやるということですね。少しその中で不安の声がいくつかあったみたいですが、やはり困ったから統合するという発想では難しいかもしれないですね。ですから、よしんばするとかしないとかという問題ではなくて、長洲町は将来を見据えてこうしたいからという方向を打ち出すことがとても重要なところだと思います。

○委員D

こんばんは。私の方は前回、まとめてあるやつにも書いてありますけども、本当に前回と同じでシンプルで、普通に最低限度、音楽も美術も家庭科もとか、本当にまず揃えて、普通に受ける教育を受けさせてあげたいなという想いを言ったところで、新しく不安とかという意見を聞いたものはないです。後は、一つ思うのがもしも、今、統合となった場合、新しく入学してくる子ども達はそれがスタートだけど、在校生となって新しく切り替わる子ども達の心のケアとかそういう部分も大切なのかなということをおし添えます。

○委員長

教育環境をしっかり充実させてほしいというのが一番なんですよね。専門性がある先生方が全部揃っている状況。子ども達のメンタル面を含めて考慮していただきたいという声があったということですね。はい、ありがとうございました。

○委員E

こんばんは。先ほど、太田先生が未来志向で大きなビジョンを掲げてとおっしゃってまして、色んな総合的なことを考えていきながらどの方向で行くのかというのが、ビジョンみたいなのが見えていけば、よりよく。統合については賛成なんですけども、そういった一番いい案が出来たらいいなと、感想で申し訳ないんですけど、よろしくをお願いします。

○委員長

ありがとうございました。元気が出るような、明るくなるようなそういうビジョンを描けるような学校づくりを目指してほしいということですね。ありがとうございました。

○委員F

こんばんは。私は、町民会議の会長と中学校の学校運営協議会の方をやっていますが、中学校の運営協議会はまだ開いていません。町民会議でもこのことははっきり言ってません。今、適正化の委員会が立ち上がったということまでです。具体的な中身はまだ話していません。今から出てくる意見を流していいかどうかですね。その辺があれば色んなところへ流して意見を徴集しようと思いましたが、まだ私は今の時点では他の人の意見は聞いていません。以上です。

○委員長

ありがとうございました。

○委員G

こんばんは。とにかくですね、この間言ったように統合というようになれば、絶対、色々と十人十色言いたい放題になって、蜂の巣叩いたようになるのが目に見えております。だから、良い学校だったら、みんな賛成するような学校づくりをみんなで進めていってほしいと思っています。まず、子ども達に心の教育というかですね、昔の人

間だから、今は、「ありがとう。」という、親もあまり感謝の気持ちがない。それで、子供はそれ以上に感謝するというようなことが忘れてしまっている。日本の心というのはさびれてしまっているような気がします。昨日の夜、クローズアップ現代で中国の教育のことをやっておりましたが、日本は100年くらい遅れているのではないかという話を主人としていたところでした。頭でっかちになれということではないけど、身心ともに健康な、長洲の統合した中学に行ってもよかったと後で言えるような学校づくりをみんなで進めていってほしいと思っています。統合には賛成です。以上です。

○委員長

ありがとうございました。いずれにしろ、どこをみて統合を考えるのか。その部分が住民の方がそれだったらいいよと。困っていないときは、困っていないのになんで統合するのという声必ずあがるんですよね。そうではなくて、困ってはないにしてもこうした方がもっと素晴らしい学校になるということが示せるかどうかで意見が分かれてくるのではないかなと思います。

○委員H

こんばんは。統合問題で前も聞いたことがあるんです。私は北海道稚内に12年間おりました。そのときにニュースで長洲町は財政的に第2の夕張かという報道ステーションを見てびっくりしました。すぐ親に電話して、どういうことだと。未だにこの借金問題のことは引きずっております。だから、もう夢みたいな話し合いは私はしたくありません。私は、もう統合したつもりで考えております。腹栄中学校にたぶんだと私は個人的に考えております。なぜならば、校旗作ったばかりです。だから、それを腹栄中学校のまま置いておくのか、新腹栄中学校にするのか。新腹栄中学校にするんだったら校歌もいないし、校旗もいないし、長洲の方に迷惑かけるんだしたら、腹栄中学校は近いから、制服は長洲の方が見た感じいいので長洲の方に統合するとか、負担軽減に最高に努めて、そしてどのようにして通学していくのか、終わったらすぐ課長に聞きました。新山と鷺巣の奥とどのくらい違うと。ほぼ同じ、4キロぐらいあります。だったら、腹栄中学校に来る方が山道、帰りも夕方になったらほとんど暗い。町は明るい反面、交通事故はどうするのかという大きな問題があります。

一回、通勤ラッシュのとき塩屋の交差点まで行ってみました。日立、不二サッシ、丸一鋼管、車が多い分だけスピードは出していないな、この整理はどうしていくのかということまで考えております。やはり、課長に聞けば10年間は辛抱しないといけないということであれば、10年辛抱するように努力して、国も動かして、新しい中学校を作って、そして前に行く。今回、統合ができなければ、私は二度と統合という話はないと思います。先へ先へ考えていってます。以上です。

○委員長

力強く語っていただきました。もう前を向きたいという想いが伝わってくる内容でした。

○委員 I

私のところ、駐在員会は明日、役員会を開きます。10名ほどのメンバーですが、そこでこの問題は投げかけてみたいと思います。ただ、2、3人の区長に聞いたところ、もう生徒の面にしろ、行政の面にしろ、GOよねとの方々は言われました。私個人で言いますと、前回の会議のときも言いましたように、喫緊の課題ぐらいに思っております。上野委員が今、おっしゃったように今回もし規模適正化がきちんところちらの調査委員会でも叩いて、当然議会筋で叩いて決まると思いますが、実現しなければもうかなりの年数ないのではないのではなかろうかと思っています。そして、今、総論で云々とか論議をされておりますが、まず大きいところで生徒のため、行政のためと、そのときは各論の重要な部分もあげていかないと総論には辿り着かないんじゃないかなと思うんですよ。議会筋にするときもじゃあとにかくして各論は後たいとかよくそんなことも議論的にはあると思いますが、各論の重要な各論、各論も色々ありますが、そういうのを添えて、議会筋とかにあげないと検討がなかなかスムーズにいかないんじゃないかなと思うっております。以上です。

○委員長

はい、ありがとうございます。この動き出しには今がチャンスではないかというようなご意見だったと思います。

私もいいですか。

(「お願いします。」と呼ぶ声あり)

途中途中にお話をさせていただいたので、わかっているかと思うんですけど、困っている困っていないではなくて、こうした方がさらに良くなるということですね、そういう魅力ある提案をしていかないと意見が分かれてしまうと思うんですよね。どんな立場の人たちも「それだったらいいよね。」「それだったらやってよ。」とってもらえるような話の進め方がどちらにしろ必要かなと思っております。

前回ですね、最後に皆さま方からご意見をいただきました。そして、今日の資料として事務局にまとめていただいておりますので、まずそれに対して回答をしたいと思います。

○学校教育課長

改めまして、こんばんは。前回、第1回目規模適正化調査委員会を踏まえまして、本日2回目となりました。お寒い中ご出席いただきましてありがとうございます。

私の方からは、前回、色んな忌憚のないご意見をいただきまして、それに対しまして事務局から回答をさせていただけたらと考えております。着座にて説明を差し上げたいと思います。

お手元に、一枚の第1回中学校規模適正化調査委員会各委員からのご意見、質問内容、これ抜粋でございます、お配りをしております。皆さん方のご意見を見まして、主に4点くらいに整理されて、絞り出されるのかなと思っております。まず、最初の稲田委員からは、地元の学校で質の高い教育が提供できるような取り組みが必要。牧山委員からは、全教科での指導、部活動指導、生徒のニーズに応えるために適正化が必要。そして、引いては子ども達の教育に繋がっていく。将来のビジョンが必要ではないか。普通に環境が整備された中で教育を受けさせることが基本であると、一体となって、腹栄と長洲が一緒となって盛り上がっていくことを期待したいと。統合した場合の中学校の教育をどのようにしたいのか示す必要があると。太田委員長からも魅力ある将来ビジョンが必要であるということで、まず、1点目は、「新しい中学校の魅力ある教育ビジョンが必要ではないか」という意見を集約させていただいております。

2点目に関しましては、岩切委員からご意見をいただきました通学の面、また道路、街灯、自転車に乗れない生徒、特別に支援が必要な生徒の対応が必要。先ほどもご意見が出ていました「安全な自転車通学のための道路整備」が必要ではないかと。また、同じ岩切委員の中からも必要な予算を確保することが必要。上野委員からも制服、自転車など、新しい学校に必要な物品等もあると、保護者負担の軽減も必要というところで、3点目は「教育費などの財政面の確保」が必要ではないかと考えております。

最後、4点目でございますけども、牧山委員からも一部ご意見が出ています部活動の指導、生徒のニーズに応えるための適正化が必要ということで、4点目は「部活動の在り方についての検討」が必要ということで、こちら4点整理させていただきました。

この中で、まず1点目の新しい中学校の魅力ある教育ビジョンについてでございます。今回、調査委員会の中で統合の是非についてご判断をいただくことになっております。この結果を踏まえまして、仮に統合するというご判断を、結論をいただきましたら、統合整備計画を策定する必要があるとございます。この中では端的に二つの中学校が1校になるのではなくて、将来を担う子ども達の育成に沿った将来ビジョンが必要となってきます。具体的な内容は、この場では申し上げられませんが、あくまでも保護者や生徒、地域の方、関係団体の方から貴重なご意見やニーズを聞きながら、行政と共に連携して決定していきたいというふうに考えております。その中で、コミュニティ・スクール、全小中学校に学校運営協議会を設立しておりますけども、先ほども出ましたコミュニティ・スクールを活かした小中一貫教育、ソフト面の充実、児童生徒

間や教科、先生方間の交流、こういったものもコミュニティ・スクールの中では活かすことが可能ではないかというふうに考えております。そして、学校運営協議会の組織につきましても、中学校が1校になることで一つの中学校とその下には四つの小学校になりますので、学校運営協議会の一体化による切れ目のない教育活動を行うことができるのではないかと考えております。

2点目の安全な自転車通学のための道路整備に関しましては、先ほど申しました統合した場合には、統合整備計画を策定しますが、この中に通学路の指定を盛り込む必要がございます。新たな自転車通学路を検討する必要がございますので、そのためには生徒が安全で事故に合わない対策が必要です。このためには道路管理者であったり、警察や関係機関と協議して、一番安全なルートを決定していくと、それに沿って必要な道路整備、安全対策をしていくということが必要になってまいります。まだ、この場では、どちらの学校にするということが決定しておりません。こういった関係機関と連携しながら進めていくということが必要ではないかと思っております。

次の3点目の教育費等の財政面の確保についてでございます。予算や財源の確保につきましては、今ある2校が1校になっても、必要な予算は当面は維持していくように、町の財政当局へ働きかけを行ってまいります。その中で新たな教育の施策、事業というのも考えてまいりたいと思っております。これは、先ほど申しました行政主導ではなくて、子ども達、生徒、あるいは保護者の方、地域の方、学校運営協議会の委員の方の意見を十分に聞いたうえで、新しい将来ビジョン、教育ビジョンというものを決めていきたいと考えております。

次に4点目の部活動の在り方についての検討でございます。こちらにつきましては、現在国の方で、文科省の方で中学校の部活動の在り方について調査の方が行われております。長洲町の方も国・県を經由して委託事業の方を受けております。こちらの方はまだ国の方が方針が出ておりません。国がどのような方針になるのか、あるいは長洲町独自で部活動の在り方を考えていくのかということも今後の統合整備計画の中で話し合いながら進めていくこととしております。その他、たくさんの意見をいただいております。合併したときの問題点など解決策を探っていききたい。一つひとつ課題を解決し取り組みことが大事である。現在の学級数と統合後の学級数で教員の数がどのように変わって、生徒に対する教育がどのように変化するか示す必要がある。コミュニティ・スクールの取り組みでも、生徒の数が増えることでもっと膨らんでいくような活動ができる中学校づくりであってほしい。そして、統合を目指すスケジュールの協議が必要というようなご意見をいただいております。最後、統合は喫緊の課題であり、総論は賛成だが各論は様々ある、これからの議論が必要ということでいただいております。福田委員からは、具体的に統合した場合学級数と教員の数がどのようになるのかというご質問でございますので、これは仮に合併した場合でございますけれども、現在、両中学校は、1学年2学級、全部で6学級でございます。両中学校が統合した

場合の学級数は、現在の生徒数でいきますと11学級、1年が4学級、2年が4学級、3年が3学級となる想定でございます。ただし、1学年は35人学級でございます。学級数は統合した場合、11学級になる予定でございます。教員数も法律に基づき、積算をしますと、前回は説明しました教員は両中学校とも9名でございますが、統合した場合は、倍の18名になる想定でございます。当然、教員数が増えることで専門教科の指導が行えます。複数の教諭が教科指導に携わりまして、余裕ができることで小学校への交流や連携が可能となることが考えられます。たくさんご意見をいただきましたが、そちら4点に絞って質問を整理しまして、回答をさせていただきました。

先ほどから、何回も申し上げておりますが、今回、調査委員会の委員の皆さま方には統合の是非について結論を、判断をしていただきまして、その次には統合に向けての整備計画を策定する必要がございます。その中で先ほどから出ております魅力ある教育ビジョンであったり、安全な自転車通学の道路整備、財政面の確保あるいは部活動の在り方についての検討、そういったところも含めて整備計画の中で議論・検討を重ねて策定していきたいと考えております。事務局からは以上でございます。

○委員長

大きく四つの柱について、ご回答いただいたところですけどももう少し詳しく教えてほしい、知りたいということがありましたら質問をお受けしたいと思っております。

○委員B

今、言われた11学級というのは、いま現在の長洲・腹栄でいけばということですよ。

○学校教育課長

今、在籍している生徒の数でいけば11学級になる想定です。

○委員長

よろしかったでしょうか。他ございませんか。

○委員H

1個いいですか。今すぐ統合するわけじゃないので町の方は何年を目指して統合しようとしているのか。2年なのか、3年なのか、4年なのか。そこをおおまかでもいいですから何年ぐらいを目標にしているということを教えていただかなければ、我々の考えも変わってきますので、よろしく願います。

○委員長

今の質問ですが、事務局答えられる範囲でお願いします。

○学校教育課長

現状の中学校の課題というのを前回ご説明を申し上げました。委員の皆さまからも緊急の課題であるということでございます。事務局としても早急にこの課題を解決したいと考えております。何年というのは、先ほどから申しておりますとおり、今後、統合するということで整備計画を策定します。そういった中で今後どういった検討・協議が必要かということでスケジュールの方を立ててまいります。ただ、私どもも4年、5年と時間をかけたくはありません。すぐにでも、本日、統合すべきという結論をいただければ、すぐにでも統合整備計画の策定に入らせてもらって2、3年を目途に新たな中学校づくりをしていきたいと考えております。

○委員長

ありがとうございます。今日のご意見の結果に基づいて先に進めていくということです。よろしいですか。

他ございませんか。

この後ですね、お一人お一人の委員さん方に統合に賛成なのか、そうでないのかというご意見をいただきますので、よろしいでしょうか。その前にもうちょっと聞いておきたいとかあれば、今、出していただきたいと思えます。

○委員C

じゃあちょっと、確認ですけど、今各学校で6学級ずつだから12学級が統合すると11学級になって、各学校に9名ずついて18名いるのが、統合したらそのまま18名…教科は充実するけど人数は変わらないということですね。

○学校教育課長（松林智之）

端的に1+1=2にはならずですね、こちら学級数は先ほど言いました1学級は35人学級もございますので、11学級にはなりますが、先生方については国の配置基準がございます。そこで積算しますと18名になるということでございます。その中で前回も申し上げてきました教科数がございますけども、18でしたら、一番授業でたくさん時間を要するのは5教科と言われる、国語・数学・理科・社会・英語でございます。この5教科については、2人以上の配置が絶対できると。そして、課題でございましたそれ以外の教科、技術・家庭科・美術にも先生方一人は配置ができると、解消ができる人数でございます。

○委員C

国の負担を考えるとという点で見えていくと、例えば長洲中なんか6学級あって国語の先生2人、英語の先生2人とかで一人3学級ずつだなど。合併しても一人3学級ずつなんだなど、なんとなく単純に思っていたんですね。ただ、学年を超えて教えなきゃいけないとかそういった部分で負担が違うんだろうなと理解をしております。

○学校教育課長

補足を。今、先生方、色々な雇用形態といたしますか、正職の先生であったり、非常勤であったり、加配の先生であったり、色々配置がございます。今は、加配の先生も含めてというところもありますので、加配の先生を除いたところで18になる。それ以外で加配の先生の配置があるとそれ以上に先生方が増えてくる。

○委員C

ありがとうございます。なかなか現状をみると本当にちゃんと県がその人数を与えてくれるのかというのがとても不安な部分ではありますけどね。

○委員長

加配を除いた数ですよ。それは間違いなくきます。

○委員C

ああ、そうなんですか。

○学校教育課長

おっしゃられるように加配は例えば色々な加配の先生方の配置があります。学力充実であったり、英語であったり。これは県の方に申請をしまして県の方から先生方の配置を下さっておりますので必ずしも毎年あるということではありません。先ほど言いました18名というのは、いわゆる教職員定数の標準に関する法律というのがあります。これに基づいて18ということになりますので、必ず18名の配置があるということになります。

○委員長

最低ラインが18名ということですので、それより減るということはまずありません。それと併せて加配が認められるとさらにプラスして人員が配置されるということになります。加配は単年度措置なので、毎年度毎年度、これだけの成果を上げたということを申請して認められないと継続できないので、ですから加配を受けた学校というのは結構頑張ってまた来年もという思いもありますので、そういった面でも好循環が生まれていると思います。

他質問ございませんか。

○委員 I

今日ここで委員会の意思が決定しますよね、その後どんなルートで最終決定に落ち着くのでしょうか。

○委員長

今日の判断を受けて、その後の構成をお聞かせいただきたいということです。事務局よろしいでしょうか。

○学校教育課長

内容の4番目にも掲げておりましたけども、今、この場で説明をさせていただきます。今回、中学校の規模適正化調査委員会は当初は3回を予定しておりました。ただし、1回目の会議で委員の皆さま方から「統合はすべき。」というご意見を多数いただきましたので、今回の2回目で結論をいただきたいというふうに考えております。この調査委員会終了後の予定、スケジュールでございます。この後、調査委員会の結論を報告書としてまとめまして、教育委員会の方に提出していただきます。教育委員会の方で中学校の規模適正化の是非について判断、決定をします。その後町長部局、最終的に町長の判断を仰ぎまして、統合すべきということであれば、今度は統合に向かって事務を進めてまいります。この調査委員会が終了しましたら、年明けの1月には中学校統合整備計画策定に関する懇談会という名称で、良ければ委員の皆さま方に引き続き懇談会の委員をしていただきまして、統合整備計画策定でご意見をまたいただきたいと考えております。この策定に関する懇談会は5回程を予定しております。

この5回の中で統合整備計画を策定してまいります。策定にあたっては、色んなご意見を踏まえまして、最終的に策定しましたら色んな関係団体の方に説明を申し上げます。説明をしまして、この整備計画で進めていいというようなご判断であれば、今度は新しい中学校づくりのための準備委員会を立ち上げます。この中で先ほど上野委員から出ております学校名や校歌、校章、校旗あるいは制服、かばん、体操服とかそして校則、学校の経営方針、教育の目標、学校施設の改修であったり、PTAの統合に必要な整理というのを準備委員会の中で検討して決定してまいります。そして、校舎の設備改修を同時に行いまして、閉校式を行って新しい新学校を開校という流れになります。これは何年度、何年度というところではまだ申し上げられませんが順番と、流れとしましては、今後、整備計画を策定して、地域団体に説明を申し上げながらそこで統合すべきだということであれば、新しい中学校づくりのための組織を立ち上げまして具体的な内容を進めてまいりたいと考えております。

○委員 I

よくわかりました。

○委員長

よろしかったでしょうか。ありがとうございました。

それでは、お一人お一人にご意見をいただくということでよろしいでしょうか。

○委員 J

はい。統合については、賛成です。ただし、中身をですね、先ほ委員長の方で言われてましてけど、魅力ある学校づくりを目指していかないとただ統合しました、手厚く少しなりますとかではなくて、そのあたりのどんな学校にするのかというのはやっぱり皆さん聞くのかなと思っています。教育費の財源を町への働きかけをしていくということでしたので、人的なものも含めて施設とかも長洲の中学校にやるところいう魅力があるんだとかですね、地域の特性を生かして、たくさんの企業が入っておりますので、そういうところで、学校の職員だけではなかなか教育力も上がっていかないとしますので、やはり地域のコミュニティ・スクールになっていますので、そのコミュニティ・スクールをして、色んな地域の方や企業も含めて教育に力を入れていって協力していただいて、魅力ある学校を作っていくといいなと思っています。私からは以上です。

○委員長

ありがとうございました。続けてお願いします。

○委員 K

はい。こんばんは。前回も言いましたけども、結論から言うと適正化は必要だなと思っています。学校の方で一番現状として、全教科の職員が揃うというところが一番かな、ここが喫緊の課題かなと思っています。これまでは、ずっと両校足りていない状況で、他教科の職員がその教科を受け持っていたという現状がありました。かなり苦勞して職員が担当していたわけですが、今年度は乗り入れでお互い一人ずつ両校に行くという形でなんとか乗り切っています。ただ、これがずっと続けることも難しいかと思っていますので、統合することによってそこが解消されるのが一番のメリットかなと、子どもの教育的にはですね、それが絶対必要だなと感じております。なるべく早くそれが実現するといいなと思っています。ぜひ、適正化をよろしくお願ひしたいと思っています。

○委員長

ありがとうございました。

○委員L

前回、中座をしまして意見が載っておりませんが、大変失礼しました。私も中学校規模適正化という本調査委員会のテーマについては賛成でございます。今、牧山校長先生からありましたように、教科指導、その他の中学校の指導でいきますとですね、合わさった方が充実した指導ができると信じております。ただ、学校の課題解決のためには中学校だけをいじっても変わらない。小中連携とか地域との連携とかいう総体を作らないといけないというところは確認をしておきたいと思います。以上です。

○委員長

ありがとうございました。

○委員A

はい。たくさん意見を聞いて、統合賛成です。話を聞いた時点で最初からワクワクしていました。何が問題かというのは聞いてみないとわからない。自分一人の意見だけではなく、計り知れない、すごくいっぱい出たので、皆さんと町の方が協力して本当にみんなが良かったねというような中学校が出来たらいいなと願っています。以上です。

○委員長

ありがとうございました。

○委員B

私自身も、結論からいけば統合には賛成です。でも、やはり皆さん言われているようにただただ二つを一つにしますよではなく、魅力ある学校ですね、在校生からしたら歩いて行けるところに行っていたのにわざわざ遠くに行かないと行けなくなった。新しく入ってくる子も近くの学校に行く予定だったのに遠くなってしまった。それを機に不登校が増えたりだとかそういうのは絶対避けなければいけないと思うので、そういった面でただただ二つと一つにするのではなく、そういう子でも、今まで通っていた学校よりも遠くなってしまっても「行きたいな。」とってくれるような学校づくりの方を今後、皆さんと一緒に、たくさん問題は出てくると思いますのでそういうのは一つひとつ潰して、魅力ある学校というのを目指していけたらと思います。

○委員長

ありがとうございました。

○委員C

この会議に出るまでは統合大賛成だったんですけど、その資料をみて足踏みするよ
うなところがあって私の気持ちとしては、将来のビジョン先行でこの話は進めたかっ
たっていうのは私の想いです。ただ、やはり統合は賛成です。本当に私、保育園の統
廃合があったときにそれこそ地域との関わりをちゃんと残してくださいという意見と
か色々あったと思うんですけど、どれほど聞いていただけたかなという思いがあっ
て、なんかあんまり、私達の意見はあんまり通らなかったなというのが、あの時の保護者
の想いだったんですよ。だから、行政を少し信用していないというか、て言ったらい
けないんですけど。だから本当にこの後の統合整備計画の中でしっかりビジョンを考
えてくれることを期待して、そこを確約していただいて賛成ということで、意見をま
とめます。

○委員長

ありがとうございました。

○委員D

私の方は基本的に賛成です。ずっと考えていました。上の娘が25歳、12年前13歳
の中学1年生の時点から、おそらく美術の先生もいなかったし、家庭科の先生もいな
かったという中で教育を受けてきました。ので、私はとても前向きにそれが基本のと
ころで揃えていただけるといところは子ども達にとってもプラスだと思うし、5教
科が苦手な子でも専門教科で伸びる子もいると思うし、そういう点ではすごくプラス
な統合になるんじゃないかなと思って賛成です。

○委員長

ありがとうございました。

○委員E

はい。私も皆さんと同意見で賛成です。本当に最後まで皆さんがおっしゃった魅力
ある学校づくりに、学校運営協議会でも出させていただいておりますので、その辺も
踏まえて魅力あるみんなが行きたい学校づくりに励ましていただければと思っていま
す。

○委員長

ありがとうございました。

○委員F

判断材料が非常に乏しかったんです。例えば、私のときは長洲小学校は千人位。私の子どものときで五百人超してました。今、二百人から三百人。今後、5年先、10年先の数がどうなのか。このまま長洲小学校はどんどん減っていくのか。それを中学校にあがっていくんだったら、数が少なくなっていく。10年先がこれは大変な数になっていくんだということが見えておればね、たぶんそうなっていくんだろうと思うけどね。そういう中で一番考えないといけないのは先生の数の確保、これは必須だと思います。それがあつたうえでどんな魅力を付加していくか。それを考えるべきでしょうね。その辺からいくと合併は賛成です。合併していかないとおそらく子ども達が損するだろうなという気がしています。私の場合は孫です。孫が小学校2年生ですがこの子たちが損するだろうなというのが発想です。だから、合併は必要だと。先生の数を確保したうえでどんな魅力を付加していくかを我々しっかり考えていかなければならんだろうなと思います。次の会議にはそのことを言って交代と思ったんですよ。我々は合併するかせんかをまず決めるというのが一つの大きな問題だったので、そのためにはこういうこと次の会議では考えてくださいというので、言っていけばいいかなと思ったんですけどね。合併は賛成です。後は色んなものを付加していく、足していくでいいと思います。

○委員長

ありがとうございました。

○委員G

先ほども言いましたように賛成です。ただ、先生の数が何人いる、専科の先生がどうかというよりも、先生の質の問題が一番だと思いますので、そのあたりをよろしくお願いしたいと思います。

○委員長

ありがとうございました。

○委員H

もう賛成どころか大賛成で動いております、個人的には。私は教育的に上のことはよくわかりません。だから生徒たちのケアと長洲と六栄・腹赤が一緒になったときの、私らの時代は長洲はハイカラ中学でこちらはブンジリ中学みたいなことで喧嘩もよくしました。殴り合いはしておりません、言い合いですね。だからハイカラ、言葉の魅力も六栄と腹赤は違います。だから一目未だに私なんかも置いていますよ。そのために

は生徒たちの明るい「おはようございます。」「ありがとうございます。」と言い合えるような、今、私、六栄小学校にもう2か月半ずっと行っています。一回、六栄小学校の見学に来てください。もう見違えるようになっています。今、六年生、二年生の子が「おっちゃん、いつもありがとうございます。花壇づくりも来年は力を入れて頑張ります。」とあいさつに来るんです。この前なんかおっちゃんに最後の挨拶してから退校したいと「本日これで帰りますので本当にありがとうございます。」というような子に成長しています。私も統合されたらしっかり生徒のケアにまわりたいというように考えております。よろしく申し上げます。

○委員長

ありがとうございました。

○委員 I

統合に賛成です。ただ、教育委員会に報告される際は先ほどから言っておりますように各論の仕分けして、重要な部分はぜひ添えていただきたいと思います。以上です。

○委員長

ありがとうございました。

では、私もですね、長洲の住人ではありません。でも、長洲町の小学校に勤めておりました。ですから、愛着はあります。その子ども達の未来を考えるともう結論からいうならば、もう早期に統合をしていただきたいというふうに思っております。ただですね、皆さん総論賛成ですよ。

(皆さん頷く)

ただ、実際なるとなるとですね、区長さん方とかここに学校があるから自分は受けているとおっしゃる方たちもそれならいいよねという魅力ある新しい中学校の未来像、これをどうアピールできるか、ここがポイントだと思っています。その内の一つがここはくしくも町全体がコミュニティ・スクールです。地域の方々が寂しくならないような、喪失感を生み出さないような仕組みが出来ているんですよ。コミュニティ・スクールという、住人参加型の学校経営というのが、それを生かさない手はない。それを存分に発揮するなかで中学校は一つになったんだけど、以前より活気が出てきたよとか、自分たちの出番が増えたねというそういう施策を打ち出していかなくてはならないんじゃないかと思っています。そういうことも含めて、もちろん子ども達のために統合があるんですけども、子ども達のためだけではなく、子ども達を中心に考えて、色々な立場の方々もそれいいねと言えるようなそういうものをこの中で協議する中で、ビジョンを具体的に描いていけたらなと思っています。私の意見は以上です。

全ての方々が「賛成だ。」ということで、中には条件もあるんだけど、皆さんの賛

同を得たところです。

一旦、事務局にお返ししてよろしいでしょうか。

○学校教育課長

皆さま方どうもありがとうございました。本調査委員会におきます長洲町立中学校の規模適正化に関する結論としましては、腹栄中学校と長洲中学校を統合し、新たな教育環境を実現する必要があるというふうに認識しております。この調査委員会の方では、その結論に関しまして調査報告書という形で教育委員会に提出していただく必要がございます。今のご意見をいただきましたその結論に関しましては、事務局の方で素案として作成しておりますので、これからお配りします中身の方を十分、本日確認していただきまして、これによければ教育委員会の方に報告書として提出したいと思っております。よろしくお願いいたします。

(報告書(素案) 配布)

○委員長

この素案についての説明がございますか。

○学校教育課長

お手元に届いていますでしょうか。

まず、表紙がございます。次のホッチキス止めが今回の調査報告書の素案でございます。

1ページ目をあけていただきますと、1ページから8ページまでは第1回目の調査委員会で議論をしていただいた資料がそのままでございます。今回、新たに付けさせていただいているのが、9ページ、10ページ目でございます。少し説明を申し上げます。

9ページ目をご覧ください。4としまして、学校規模適正化に対する町の基本方針を示しております。学校規模適正化の検討は第一に学校の果たす役割を再認識する必要があり、生徒に係る教育的な観点を中心に捉え学校教育の目的や目標をよりよく実現するために行うべきであり、生徒に不利益が生じないよう教育の質の向上を図ることとしております。中学校における現状と課題を踏まえまして、学校の規模適正化ができない自治体もあります。その中で本町では学校規模適正化が実現できる自治体でありまして、そのメリットは十分に活かせる町とも言えます。このため、中学校の規模適正化に前向きに捉え、子ども達に与えられる教育環境づくりに取り組むべき時期にあると考えております。本町は、昭和31年の町村合併からすでに65年を経過しており、今後も各地域の伝統文化を大切にしながら、今まで以上に将来に向けて、「長洲町はひとつ」という意識を大切にして、学校の統合再編への取り組みが期待できると

いうことにしております。この中で、次に（１）の再編基準でございます。学校規模における問題点、学校教育法施行規則、中学校設置基準等の法令、長洲町の現在の中学校規模や地理的条件などを勘案しまして、長洲町立中学校の望ましい学校規模は次の示す内容を基準としました。（ア）でございます。町立学校１学級あたりの生徒数はどのようにするのかでございます。熊本県教育委員会の市町村立小中学校編成基準に基づきますと現行どおり１学年を３５人学級にしまして、２年から３学年は４０人学級としたいと思っております。ただし、県の基準が変更された場合は、これに準拠することとしたいと考えております。（イ）の１学級あたりの望ましい学級数としましては、集団生活に活力があふれ教師と生徒間に様々な関わり合いができること等を考えますと学校教育法施行規則に定められております標準規模でございます１２学級から１８学級程度としたいと思っております。（２）の再編の手法でございます。学校教育の充実と児童生徒により良い教育環境を整備し、適正な学校規模を実現するための具体的な方策につきましては、通学区域の見直しと学校の統合（新設を含む）の二つが考えられます。まず、アの通学区域の見直しに関しましては、適正化を検討する範囲である学校の通学区域と隣接する学校の通学区域の一部を変更することで、学校規模の適正化を図るものです。これは、大規模校の適正化を検討する際に有効な方策であると考えられます。今回、調査委員会の中でも検討をしていただきました（イ）の学校の統合でございます。これは適正化を検討する範囲にある学校が隣接する学校と統合することによって学校規模の適正化を図るものです。これは隣接する校区に大規模校が存在せず、通学区域の見直しだけでは適正化が困難な場合に有効な方策であると考えられております。これらのことを町の基本方針としたいということで示しております。次の１０ページ目でございます。先ほど、ご意見を皆さま方からいただきました５番目に学校規模適正化に対する調査委員会の結論でございます。

現在の長洲町立中学校における現状と課題を調査した結果、教員の適正な配置をはじめ、質の高い教育環境の整備及び財源の確保、教員の働き方改革など、早急に解決すべき課題でございます。これらは、長洲町の子ども達の成長に大きな影響を及ぼす可能性があり、中学校の規模適正化による教育条件の改善については、長洲町として早急に実現する必要がございます。よって、本調査委員会における長洲町立中学校の規模適正化に関する結論としましては「腹栄中学校と長洲中学校を統合し、新たな教育環境を実現する必要がある」というふうに判断をいたします。以上、本調査委員会の結論としたいというふうに考えております。表紙を見ていただきますと、こちらには太田委員長の名前で教育委員会の方に提出する鑑でございます。この中で前回ご意見をいただきました四つの項目に絞りましたが、（１）の新しい中学校の魅力ある教育ビジョン、２点目の安全な自転車通学のための道路整備、３点目には教育費などの財政面の確保、４点目に部活動の在り方についての検討、こういった項目については今後、統合整備計画を策定するなかで十分に協議を重ね、検討して整備計画の中に

盛り込んで決定していきたいと考えております。この旨を記載しまして、申し添えますという形で表紙の方に記載をしております。以上が今回調査報告書を提出する際に素案でございますけど、こういった形で提出をしていただければと考えております。

○委員長

今、初めて素案をご覧になったことと思います。概略、事務局の方から説明がありましたけども、これについてもっと説明が欲しいという部分がありましたらご意見をお願いします。

○委員C

途中の再編基準のアのところ、2～3学年は40人学級としますはこれは県の規定ということで、長洲独自で35人とか可能なんですか。

○委員長

はい。事務局どうぞ。

○学校教育課長

これは、長洲独自、自治体独自でも可能でございますけども、そういった場合、クラス編成で例えば2学級になった場合は、県費の先生の配置が来ない場合は、町の予算で先生を雇い入れるという方法が考えられます。現行では県費の先生方の配置というところを基準にして考えていきたいというふうに考えておりますので、現在だと1学年だと35人学級、2、3年は40人学級で編成したいと考えております。

○委員長

はい、続けてお願いします。

○委員C

できれば、35人が私はいいなと思うんですが、少ない方で、可能であれば。今の現状が11学級とおっしゃいましたけど、標準規模が12学級から18学級程度になっていて、11学級だったら加配が減るじゃなくて、定員が減るということはあるんですか。

○委員長

はい、事務局お願いします。

○学校教育課長

先ほど申しました標準法という法律で先生方の配置数の方は決定してまいります。
これも学級数によって先生方の人数というのが変わってまいります。

○学校教育課指導主事

基本的には標準法という法律に則っているので、18は変わりません。それプラスの35人学級で学級数が増えた場合は先生達が2人必要ということなら、その2人分は町負担ということになります。

○委員C

例えば、今、長洲中と腹栄中に係っていた予算が一つになって、こういったところに浮いた財源もガンとつぎ込んでいただいて加配をいっぱい付けるということも可能ということですね。

○学校教育課長

学級数の配置数でございます、6学級の場合は先ほどいいました先生方9人でございますけども、これが9学級になった場合は、15人。11学級と12学級だと先ほど言いました18人となります。学級数によって先生方の配置数が変動していきます。

○委員長

よろしいでしょうか。

○委員C

そうですね。学級の人数はちょっと本当は議論したいところですけど、これに出した後で変えられないということになるんですか。

○委員長

その後は、具体的にその辺も含めた話し合いが進んでいくだと思います。
他にございませんか。

○委員K

内容ではありませんが、編成のところのイのところ、1学級あたりのは、1学校あたり…。

○学校教育課長

申し訳ありません。1学級ではなく、単位が1校あたりの望ましい学級数ですね、訂正をお願いいたします。

○委員K

その内容で行くと、アとイが反対かなという気がします。1校あたりの学級数があって、学級あたりの人数という方が自然な流れのような気がします。

○委員F

35人と40人というは何か意味があるんですか。

○学校教育課長

35人学級というのは国が推進しておりますけども、国の流れによって熊本県でも1年生は35人でいうところで、2年と3年生は40人ということで、国が示す基準によって熊本県の方もそのようになっている。ただ、独自に学級を設定している場合もございます。そういった場合は先生の配置も独自に必要なとなってきます。

○委員長

学級編成の人数が減れば、先生の増えますが、1人先生が増えるということはどれだけ経費がかかってくるか。1年間の分の先生方の給与等の経費が増えるということになりますので。

○委員G

生徒数が少ないと、手厚いと思われるかもしれんけどそうではない。

○委員C

これに加えて、また特別支援学級…。

(「特別支援学級が特別支援学級で基準がある。」と呼ぶ声あり)

○委員長

他、ございませんか。

では、よろしいですかね。長時間にわたってご意見たいへんありがとうございました。本日いただきましたご意見についてはですね、この報告書とは別に準備していただけるものと思っております。皆様方のご意見を踏まえて、長洲町立中学校規模適正化調査委員会の報告書を作成して、これを先ほどご指摘いただいた部分を修正して教育委員会へ提出しますがよろしいでしょうか。

(「はい。」と呼ぶ声あり)

それでは、これで全て終了しましたので、事務局にお返しします。

○学校教育課長

本日の議論、たいへんありがとうございました。これから、統合すべきという結論をいただきましたので、先ほども申しました、これは来年になりますけども、「統合整備計画策定に関する懇談会」という名称で引き続き皆さんのご意見をいただきながら色々統合に向けた整備計画の策定に入っていきたいというふうに考えております。

委員からもございました、「総論は賛成だが、各論はたくさんある。」ということでございます。

次回、年明けになりますけども、懇談会の中で皆様方と議論しながら、整備計画の方を策定してまいりたいというふうに考えております。

この度はどうもありがとうございました。

今後どうぞよろしく願いいたします。

閉会